

RPF、安定供給体制確立

東部開発

2000 t / 月を生産

東部開発（大分市、
首藤聖司社長、☎09

7・573・135

5）は、RPF製造事業について操業5年で1カ月当たり平均2000tを超える水準に到達、ユーザーへの安定供給を確立した。近く破碎機を新たに導入し硬質廃プラスチックの原料利用も計画、生産体制の強化を図る。RPF生産を開始し

た当初は1カ月当たり700t程度の生産量

用破碎機の設置を決めた。

でとどまっていた。以降、排出事業者とも廃プラの燃料利用化に関する協議を重ね、塩ビの除去・分別などについて理解を得ることに

原料の集荷エリアは、75%が九州。その内、地元の大分県内が36%を占める。RPFの需要先である製紙工場からは、ボイラで発生する焼却灰（フライアッシュ）の処理を受託し、下層路盤材として活用する事業も手掛けている。

固化促進剤を添加し造粒・固化。同社の保有するコンクリートからの再生ラインで下層路盤材に加工し、2005年2月から全量販売している。

Fの原料となる廃プラ等の発生状況などを出資社間で情報交換、地理的な条件が合致すれば、互いに原料供給などについて融通し合う仕組みをとっている。

今後、原料確保をめぐる過当競争とは一線を画し、さらに良質なRPFの供給を目指す方針だ。

も利用できるよう、専
焼却灰にセメントと